

一般社団法人 日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

会報 JASCG

- 1◎巻頭言
- 2◎第38回研究大会（広島大会）のご案内
- 3◎第36回中央研修会報告
- 4◎スクールカウンセラー情報
- 5◎支部のキラリ
- 6◎新入会員紹介—山梨県支部—//
支部活動報告—福島県支部—
- 7◎研修委員会//調査研究委員会//認定委員会
- 8◎学会誌作成委員会//広報委員会
- 9◎ガイダンスカウンセラー関連情報//会員の著書紹介
- 10◎会長コーナー//事務局より//編集後記

第79号

巻頭言 私と教育相談 「子どもの可能性を伸ばす」



北関東・山梨ブロック代表
住谷 孝明

昨年、群馬県では8月5日に伊勢崎市で41.8度と国内観測史上最高となる危険な暑さを記録しました。8月6日からは各地で豪雨や突風により、14の道府県において人的被害や住宅被害が報告され異常気象が特別なものではなくなりました。12月8日には、青森県東方沖を震源とするマグニチュード7.5の地震により、八戸で震度6強を観測し、気象庁は新たに「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表しました。

自然災害の猛威とともに、社会の変化も激しく、これからの子どもは65%が今はない職業につき、

今後10～20年で65%の仕事が自動化され、人工知能が人類を超えるという指摘もあります。激しく変化する社会に対して、子どもには「生きる力」、「社会を生き抜く力」を身に付けさせようと学校では取り組んでいます。

子ども一人一人が能力や適性を発揮できるよう、自分で目標を設定し、ふり返り、責任をもって行動させる支援が大切です。子どもが主体的に学び、知識、技能等の認知能力と学びに向かう非認知能力を相互に高め合いながら身に付け、一人一人が可能性を最大限に伸ばせるよう、よりきめ細かな支援が望まれています。「個別最適な学び」、「協同的な学び」が推進され、自己決定、対話、交流、試行錯誤の場面を充実させ、子ども主体の授業づくりに努めましょう。増加傾向にある特別な支援が必要な子どもには、多様性を尊重し、一人一人の特性に応じた支援を推進しましょう。

子どもを取り巻く環境が変化し、不登校やいじめ等の生徒指導上の課題が増加しています。SCやSSW等を有効に活用し教育相談を充実させて、子どもの自己指導能力の向上に向けて組織的に取り組みましょう。子どもが可能性を最大限に伸ばせるよう様々な専門性をもった人材と連携、協働し、複雑化、多様化する課題に向き合い、多様な学びを有効に活用できるよう支えていきましょう。

★第38回研究大会（広島大会） のご案内

これからの社会を創る子どもたちがどのように育つのか、その中で子どもたちは自分の「育ち」を周囲にどう理解され、見守られ、促されていくのか。今、ますますその意義が大きくなっているように思います。今年8月に開催する広島大会では、皆様と共にその意義について深く迫る様な大会にしたいと、実行委員会一同、準備に勤んでおります。

コロナ禍では難しかった対面開催の研究大会が復活して3年目、ついに夏季ワークショップも併せてのフル開催ができるようになりました。開催日程等は以下の通りです。詳細はこの会報とともにお手元に届いている「二次案内」をご覧ください。

- 【日 程】令和8年8月22日（土）・23日（日）
（*8月21日（金）は同会場で夏季ワークショップが対面で開催される予定です）
- 【会 場】広島大学東千田キャンパス・Clip 広島
（新幹線・JR「広島駅」南口よりバス15分、広島電鉄（市電）25分）
- 【テーマ】「すべての子どもの未来を共創する学校教育相談-包括的生徒指導実現への第一歩-」

＜テーマに込めた想い＞

かねてより本学会では子どもの問題行動や状況について、子どものニーズを理解し、支援しながら成長を促す教育相談が重要だとして活動してきた歴史があります。本学会の先生方が改訂に関わられた現在の「生徒指導提要」にも教育相談が生徒指導の中核を為す重要なものであることが示されています。とはいえ、未だ一部の学校現場では、子どもの背景の多様化、指導の困難さから、「厳しく、締めて叱る」生徒指導に陥ってしまったり、「子どもに原因がある」と捉えられてしまったりすることも多く、子ども中心の包括的な成長支援に十分には至っていないと感じてしまうのが現状です。

このような状況の中、本学会の皆様は、子ども理解の必要性などについて同僚や管理職に理解してもらい、効果的な実践を展開してこられたことと思います。一方で、共通理解の浸透や、チームでの実践の展開に苦戦するという状況も多く、素晴らしい実践を展開されている先生の多くが、「自分だけでも頑張っ

て、子どもが成長してくれたらよい、わかってくれる人だけがわかってくれればよい」という心境にもなりがちなのにも思われます。

しかし今、コロナ禍を経て子どもの問題行動等は激増し、教育相談を中核とした包括的な教育相談・生徒指導は重要性が増しています。では、その具体的な一歩を、我々はどう踏み出せばよいのでしょうか。広島大会の実行委員はほとんどが、20代～40代のメンバーです。先達の皆様が切り拓いてこられた道を、これからもっと広げるためにはどうすれば良いのか。皆様のお力を借りながら、明日からの一歩につながる大会にしたいと考え、このテーマ設定に至りました。

＜シンポジウムのご紹介＞

シンポジウムでは、「自らの理念をどう他者に伝え、アクションを起こし、チームになっていくか」について、ご登壇者様の話題提供やフロアとのディスカッションを通して、参加者の皆様にヒントとエネルギーを持って帰っていただきたいと考えています。シンポジストは、元NHKのディレクター（『プロフェッショナル仕事の流儀』制作、「注文を間違える料理店」仕掛け人）で、現在は「みんなの力で、がんを治せる病気にする」という理念を掲げたNPO法人、delete Cの代表を務めておられる小国土朗様。元広島県教育委員会で叡智学園の立ち上げや経済産業省「未来の教室」チームにも関わった経験をお持ちで、現在は教育事業を中心に伴走を手掛ける株式会社PLAY SPACE代表の叶松忍様。そして、本学会元会長・広島大学名誉教授であり、生徒指導提要の改訂に関する協力者会議委員でもあった栗原慎二大会実行委員長です。御三方には、それぞれのご経験をもとに、上述したポイントについてお話していただきます。企画者ながら、きっと、面白い話になる！とワクワクしています。皆様お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

（文責：広島大会実行委員会事務局長 山崎 茜）



第36回中央研修会報告

1月10日(土)・11日(日)の2日間、文教大学越谷キャンパスにおいて、第36回中央研修会を全面対面にて開催いたしました。

今回は、1日目は全体会として基調講演とパネルディスカッション、そして懇親会を行いました。2日目はコース別講座でした。

参加者数は128名でした。

それぞれのプログラムについて、参加者数と簡単な感想を報告させていただきます。

【基調講演】(参加者89名)

<テーマ> これからのスクールカウンセリングと学校教育相談

<講師> 石隈利紀氏(東京成徳大学特任教授)
教育相談の今後を考える貴重な時間をいただきました。特に心理に強い教員の研修プログラムに興味を持ちました。

【パネルディスカッション】(参加者89名)

<テーマ> スクールカウンセリングの統合を目指して—学校教育相談、教育カウンセリング、学校心理学の立場から—

<パネリスト>

- ・小玉有子氏(弘前医療福祉大学教授): 学校教育相談の立場から
- ・藤川章氏(文教大学非常勤講師): 教育カウンセリングの立場から
- ・田村節子氏(一社スクールセーフティネット・リサーチセンター代表理事): 学校心理学の立場から

<コーディネーター> 会沢信彦(文教大学教授)
各立場でのご意見を聞いて、各団体が協力して現在の学校に必要なカウンセリングを提供していくべきだと改めて感じました。

【コース別講座 Aコース】(参加者29名)

<テーマ> 学びのユニバーサルデザインによる授業作り—教師主導から学習者中心への転換—

<講師> 高橋あつ子氏(早稲田大学教授)

ワークショップを豊富に取り入れていただいたことで、学習者中心の授業づくりについてアクティブに学ぶことができました。

【コース別講座 Bコース】(参加者35名)

<テーマ> いじめ問題における聴き取りのコツ

<講師> 須藤明氏(文教大学教授)

そもそも「事実」とは何かという点から考える機会となり、事実を正確に聴き取ることの難しさを改めて実感しました。

【コース別講座 Cコース】(参加者14名)

<テーマ> ライフキャリアの視点からキャリア教育を考える

<講師> 辰巳哲子氏(リクルートワークス研究所 主任研究員)

具体的な実践のみならず、社会全体の構図や積み重ねられてきた世界や日本の研究をもとにご講義くださり勉強になりました。

【コース別講座 Dコース】(参加者15名)

<テーマ> 学校教育相談を中心に据えた学級集団、集団づくり

<講師> 米田成氏(梅光学院大学講師)

アセスメント、SLE、PBIS、ピア・サポート、協同学習の関係を、構造的に整理してお話しされたので、理解が深まりました。

このように、参加者の多くから好意的な感想を寄せていただき、研修委員会として大いに勇気づけられました。

(文責: 研修委員会委員長 会沢 信彦)



★スクールカウンセラー情報

「スクールカウンセラーの 立ち位置」

新潟県支部 山田友明



新潟県は中学校区を単位としてスクールカウンセラー（以下 SC）を派遣しています。例えば中学校区に二つの小学校がある場合、SC は三校を担当します。年間の派遣回数は決まっているのであらかじめ三校で回数を相談して決めます。これまでの私の場合（中学校 1 校小学校 2 校の場合）、中学校は毎週 1 回小学校は 2 週に 1 回の派遣が多かったです。中学校が多くなるのは小学校より対象生徒や保護者が多かったからです。限られた時間の中で SC は自分の力を十分発揮出来るように日々努めています。さて、これまでの私の経験から表題について述べたいと思います。

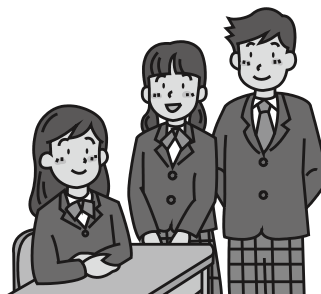
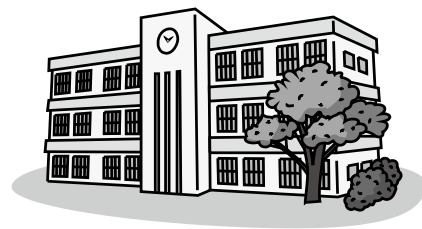
最初に勤めた中学校での体験です。勤務の初日に全校生徒に SC を紹介するために臨時的全校朝会がもたれました。校長が私を紹介しその後私が少し話すという順番です。校長は私を紹介する時「悩みや困ったことがあったら相談してください」という言い方をしました。この言い方に私はやや違和感がありました。SC としては「話したいことがあればいつでも来てください」と言ってほしかったのです。悩みや困ったことがなくてもなんとなく SC と話したい雑談したいという生徒もいるでしょう。何か問題がないと SC には会えないでは意味がありません。面接は問題解決だけを求める時間ではありません。生徒は SC に自分の気持ちを話して安心を得、意欲を喚起してまた学校生活の中に戻っていく、その時間と場を保障している人が SC なのです。生徒が担任に無断で SC に話しに来るとい学校はありません。でも「話したいことがあれば SC に言ってみたら」くらいの言い方で生徒に話をしてくださる担任はいました。先生方は真面目な人が多く SC に迷惑になるから用事がないのに行ってはいけないと考えている方もいました。SC の「もっと気楽にきてください」というアナウンスは必要だと思っています。

もう一つ教師と違う立ち位置について述べます。

某統計では児童生徒は相談相手に教師を選ばないという結果が出ています。中学生にきくと「学校の勉強については先生に相談するが、友達との人間関係の話は絶対言わない」と言いました。中学生が相談に選ぶ第一の人は友達です。教師を選ばない理由は評価したり指示したり叱責したりする人だからです。そして生徒にとっては利害関係者という面もあるからです。だから本当のことを言うわけがない。教育相談をはじめて勉強した時に講師から言われたことは「教師の立場をおりなさい」でした。評価、指示、叱責などをわきにおいてみる。そうすると話の聴き方が変わりクライアントも話をするようになる。そのとおりでした。SC は用事（問題）がなくても話していいし、評価、叱責等抜きで話を聴いてくれる人。

同じ学校にいても SC は立ち位置が違います。生徒には成績などに関することは教師に相談するように言いました。教師と SC が面接後に話さなければならぬ時があります。私は必ずどこまで何を話しているか生徒に確認して面接を終わるようにしました。ただし命に関わるようなことはこの限りではありません。SC の立ち位置についてはあらかじめ学校に伝え、生徒との信頼関係のためにもご理解いただくようお願いしてきました。これまでの私の経験でいえば、このことを拒否した学校はなく、このようなやり方で大きな問題を生じたこともありませんでした。

今後も SC としての研鑽を続けていく所存です。



☆支部のキラリ！☆

「見えない・見えにくい子たちの心に光を」 山形県支部 早坂佳代

私は盲学校に勤務しています。視覚障害についてほとんど知識がなかった私ですが、見えない・見えにくい子どもたちとの日々を過ごす中で、これまで自分が生きてきた世界の見方や考え方が大きく変わりました。



中でも最も大きな変化は、見えない・見えにくいことを「かわいそう」と感じなくなったことです。このような私自身の心の変化は、教育相談の理論を学んだことによって生まれました。

皆さん、少し目をつぶってみてください。普段は意識していない匂いや音、風の動きなどを、より鮮明に感じられるのではないのでしょうか。同時に、自分の心の動きにも気づきやすくなると思います。

実際に、視覚障害のある子どもたちには、思慮深く、自分の気持ちと向き合う力をもつ子が多いと感じています。一方で、思春期になると、晴眼者と比べて、自分の苦手なことやできないことを、よりはっきりと自覚するようになります。その結果、「私は目が見えないから仕方ない」と諦めてしまったり、理想の自分になれない苦しさからパニックを起こしたりする子もいました。

通常学級では、さまざまな特性をもつ友人と関わり、悩みを共有する中で、「人とは違う自分」を受け止め、気持ちを整理する経験を重ねることができません。しかし、盲学校は児童生徒数が少ないため、他者がどのように考え、どのように気持ちを整理しているのかを知る機会が限られています。

見えない・見えにくいことで周囲からの情報を得にくい彼らの苦しさを感しながらも、当時の私は、十分に力になることができずにいました。

そんなとき、山形大学の教職大学院で学ぶ機会をいただきました。そこで学校カウンセリングの授業を受講し、解決志向アプローチにおける「リソース」

という考え方を知りました。これは、できないことをできるようにするのではなく、今すでにもっている資源（リソース）を活かして解決策を見いだそうとする考え方です。「人の顔は見えないけれど、足音で誰かが分かる。それでも分からなければ聞けばいい」といった捉え方は、子どもたちに新たな視点と前向きな力を与えてくれました。

現在、本校中学部では、毎週水曜日の朝の時間を活用し、関係づくりのワークに取り組んでいます。視覚障害のある子どもたちは、相手の様子が見えない中で、不安を抱えながら会話をしています。そのため、人前で話すことに苦手意識をもつ子も少なくありません。

ある日、全盲のAさんから「みんなの前で話すのがとても苦手です」と相談を受けました。対話を重ねる中で、Aさんは、相手の反応が分からないことが不安の原因であると気づきました。そこで私は実際には皆が頷きながら話を聞いていることを伝えたところ、Aさんは安心した表情を見せました。

その後の弁論発表会で、Aさんは「私の話で声で反応してもらえると嬉しいです」と自分の思いを伝え、自ら不安を解決しました。

教育相談の魅力は、生徒が自分の心の中にある「解決の光」に気付く過程に寄り添える点にあります。私自身、これからも学び続け、見えない・見えにくい子どもたち一人一人の心に光を届けていきたいと思っています。



★新入会員紹介—山梨県支部—

山梨県支部では、毎年6～7名の入会者があります。現職の校長先生が何名も入会してくださっていることは心強い限りです。

今回は、入会手続きをしたばかりの内藤 唯先生を紹介します。先生は、経験13年の中堅養護教諭で公認心理師の資格も取得しています。入会のきっかけや今後の抱負について次のように語ってくれました。

「前から準会員として支部の研修会に参加していましたが参加したきっかけは校内の回覧文書で回ってきた支部研修会の案内でした。『発達障害と愛着障害をどう支援するか』をテーマとしたその研修会は、今まさに向き合っている児童の支援に役立つものでありました。以前から不登校の児童や生きづらさを感じている児童の支援には心理学の知識や理論が必要だと感じていたため、できるだけ研修会に参加するようにしました。支部で開催される研修会はどれも児童理解をさらに深められるものばかりで、自身の力になることを実感しています。このような経過の中で入会の手続きをしたところです。

教職員の教育相談スキルは今後益々重要視されていくと聞いているため、自身も得意とする分野を見つけ、支部の研修会で学びをさらに深めていきたいと考えています。」

(文責：山梨県支部理事長 内藤雅人)



★支部活動報告—福島県支部—

令和7年度より福島県支部代表に就任いたしました、遠藤寛之です。

本支部では近年、活動が休止状態にありましたが、令和8年度は「久しぶりの一歩を踏み出す」ことを掲げ、再始動に向けた以下の取り組みを推進してまいります。

(1) 令和8年度事業計画の策定と組織基盤の構築
まずは休止していた理事役員会を再開し、顔合わせを行うことから始めます。過去の記録を紐解きながら、現状に即した無理のない「持続可能な事業計画」を策定し、活動の土台を整えます。

(2) 福島県支部総会および研修会の開催

現在、県内には9名の会員が在籍されています。総会では、策定した事業計画をたたき台として、今後の支部活動のあり方を皆様とともに検討したいと考えております。

また、長らく実施できていなかった支部主催の研修会についても、年1回の開催を目標に企画いたします。会員同士が教育相談に係る資質・能力を高め合い、ともに学び合える場を具現化してまいります。

(3) 「教育相談の学び」を広げる拠点づくり

私は現在、福島県教育相談チームの指導主事を務めております。福島県教育センターでの通算7年間にわたる研究・研修・相談業務を通じ、県内の多くの先生方が「教育相談の学び」に高い関心を寄せられていることを肌で感じてきました。

私自身、本学会や他支部の研修、そして県支部の先達からのご指導により、学びを深める機会を多くいただきました。今後はその恩返しとして、福島県支部を「教育相談を学びたい」と願う方々の拠り所にしていきたいと考えております。

令和8年度、私の使命として、まずはこの「久しぶりの一歩」を確実な歩みへと繋げていく所存です。

(文責：福島県支部代表 遠藤 寛之)



★研修委員会

対面で行った前回の中央研修会は令和2（2020）年1月11・12日に国立オリンピック記念青少年総合センターで行った第30回中央研修会でした。新型コロナウイルスが世界を席卷する直前のことでした。

令和3（2021）年1月の第31回は、中林浩子委員（当時）らによる大変なご尽力により、初めてオンラインで開催することができました。その後、令和7（2025）年1月の第35回まで、オンラインでの開催が続きまして。

そして、実に6年ぶりに全面対面で開催できたのが、今回の第36回中央研修会です。

日程は、国立オリンピック記念青少年総合センターで行っていた頃に戻すことにいたしました。そして、会場は、私の勤務先である、埼玉県越谷市の文教大学で開催することといたしました。

勤務先とは言え、6年ぶりの対面での研修会ということで、私としては大変不安でした。そこで、本学関係者で埼玉県支部会員でもある方5名と私とで「現地実行委員会」を立ち上げ、準備に当たりました。この方達のお力添えがなければ、今回の成功はありませんでした。

懇親会も含めた全面対面での中央研修会について、多くの参加者から感謝の言葉を頂戴し、研修委員一同、大変嬉しく思っているところです。第37回についてはこれから検討いたしますが、私としては今回同様ぜひ対面で開催したいと考えています。

（文責：研修委員長 会沢 信彦）

★調査研究委員会

調査研究委員会では、「学校における教育相談のあり方」（①教育相談コーディネーター、②教員に求められる教育相談の力）に関する研究を引き続き進めています。①教育相談コーディネーターに関する研究では、インタビュー調査をもとに、「学校教育相談体制が機能している状態」についてまず分析を行い、6つの側面があることを見出しました（「子ども・保護者への支援が充実している」、「教職員への支援が充実している」、「教職員の関係が良い」、「コーディネーターを中心にチーム、組織で対応する体制がつ

くられている」、「教育相談への理解を深め、教育相談を推進する体制がある」、「教育相談体制を維持していこうとする状態がつけられている」）。そして、それら6つの側面のためにコーディネーターが具体的に何をしているのかを分析しています。コーディネーターの具体的な活動については、今後の研究大会等でご報告したいと考えています。②教員に求められる教育相談の力に関する研究では、第38回研究大会（京都大会）自主シンポジウムで発表した「教員に求められる教育相談の力」チェックリストの完成を目指しています。昨年、学会員の先生方にご協力をお願いしましたが、現在は学会員以外の先生方に回答へのご協力をお願いしています。さまざまな立場、年代の先生方の回答を統計的に検討し、妥当で信頼性のあるチェックリストを完成させたいと考えています。

（文責：調査研究委員長 金子 恵美子）

★認定委員会

○第4回「学校カウンセラー事例研究会・情報交換会」について

令和5・6年度に学校カウンセラー資格を取得された方を対象として11月22日（土）に開催しました。全国各地から13名の参加があり、インシデントプロセス法による事例検討では活発に意見が交わされました。

参加者からは、「他の県の方々との交流は貴重な経験であった」「様々な意見を聞くことができ大変勉強になった」「今後に生かしていきたい」等々の感想をいただきました。

○認定審査状況について

今年度は、2月7日（土）・8日（日）に学校カウンセラー及び学校カウンセラースーパーバイザー新規申請者の面接審査を東京会場にて実施しました。学校カウンセラー新規申請者は24名、更新申請者は66名でした。また、学校カウンセラースーパーバイザー資格認定申請者は2名、更新申請者は27名でした。

○更新申請手続きの延期について

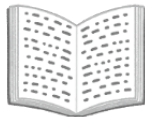
更新申請手続きは1年間延期が可能です。期日までに申請をお忘れだった方は下記の担当へ3月末日

までにご連絡をお願いします。令和8年度に手続きすることで資格継続できます。ただし、次の更新は4年後となります。

日本学校教育相談学会認定委員会 事務担当
TEL : 028-647-1717 FAX : 028-649-1213
(栃木県カウンセリングセンター内)

(文責：認定委員長 荒井 明子)

★学会誌作成委員会



現在、学会誌第36号の編集を進めています。

本年度の投稿論文は12本(再々投稿1本、新規投稿11本)でした。第36号は令和8年6月発行予定です。

学会誌作成委員会に投稿された論文は、複数の委員の査読を経て審査結果をお返しします。その際、修正意見もお知らせします。修正後の再投稿、あるいは再々投稿により掲載に至る論文がほとんどです。委員による再審査、再々審査を経て論文がブラッシュアップされていくことを期待しています。

また、令和4年度から開始しました「論文作成連続講座」は2名の方が受講されました。講師とマンツーマンで充実した研修ができました。作成された論文の投稿をお待ちしています。来年度以降もこの講座を継続します。定員は9名ですので、多くの方のご参加をお願いいたします。

さて、すでにお知らせしていますように、学会誌第33号以降に掲載される論文のうち執筆者の了解が得られたものについては、学会ホームページ及びJ-stageで公開する予定です。学会誌第32号以前に掲載された、事例を取り扱っていない論文については、執筆者の希望があれば公開可能です。ご希望の方は、学会誌作成委員長までメールでお知らせください。メールアドレスは以下の通りです。

ytknkmr7@rs.tus.ac.jp

(文責：学会誌作成委員長 中村 豊)



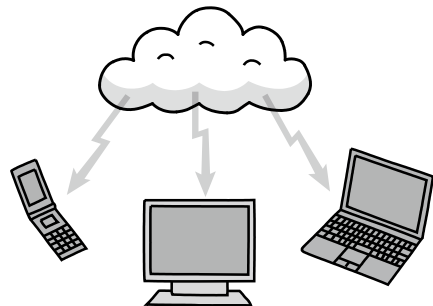
★広報委員会

広報委員会が学会事務局と連携して担当する学会公式SNS(XとInstagram)の運用、活用が始まっています。今回、全会員に周知するため、SNSのチラシも会報に同封しています。先日のメルマガでも再配信されています。ぜひ、多くの会員の皆様にフォローしていただき、SNSならではの利点を生かして拡散され、フォロワーが増えていくことを願っています。また、各支部や専門委員会などの研修会案内やお知らせなどでもご活用ください(最新では、学会公式SNSへの投稿依頼はすべて学会HPのフォームからです)。フォローや投稿利用の詳細については、メルマガ配信、または、紙の会報に同封のチラシをご覧ください。

次に、会報の原稿執筆依頼と回収方法についてです。今号から、持続可能な会報発行のため、業務改善を進めて新方式に変わっています。執筆に関わる共通の案内を作成し、担当者にメールで配信し、クラウドのドライブを利用して原稿を回収し、広報委員会でも個別の原稿や編集・校正用原稿をそこで共有することにしました。これまでは、個別に執筆依頼を作成し、個々にメールを送信し、相対で原稿のやり取りを行い、編集・校正作業もその都度メールでやり取りをしながら行うという複雑で手間のかかる方法が続いていました。今回は、封書・郵便でのやり取りを電子メールに変えて以来の改革です。広報委員のメンバーの多くは、多忙な小中高の現役の教員です。学校だけでなく、学会も業務改善が不可避です。ご理解の上、新しい方式での会報作成にご協力をお願いします。執筆や入稿に関して不明な点がある際には、広報委員長松本までお問い合わせください。メールアドレスは以下の通りです。

matumoto7038353@gmail.com

(文責：広報委員長 松本 直美)



★ガイダンスカウンセラー関連情報

＜ 各種委員会等の最新情報に関する報告 ＞
(各委員長・チームリーダーより)

1) 認定委員会

「文科省の現職教員に対する心理研修プログラム」受講修了者を対象とする新試験および今年度の資格更新を準備している。

2) 研修委員会

6月21日に公開シンポジウム、國分康孝スクールカウンセリング賞表彰式を開催した。今年度はHPを参照してください。

3) 研究委員会

全国的に設置が広がっている「第三者委員会」に関する調査・研究を検討している。

4) 広報委員会

会報23号の完成、今年度から経費削減のため基本的に郵送ではなく、メールで会員に配布をする。

5) 支援事業委員会

都立高校生への自立支援事業と同じ様な支援を神奈川県立2高校からも要望があった。

6) スクールカウンセラー促進戦略本部

スクールカウンセラーの採用促進や待遇改善への活動を検討継続中である。

7) スクールカウンセリング専門研修プログラム運営委員会

レポートの内容から各受講者が多くの学びを得ている。

8) 「現職の教員に対する心理の専門性の研修プログラム」検討チーム

研修が全国で展開に進んでいる。さらに改良を目指したい。

*文科省からの委託事業として、「心理に強い教員の資質・向上プログラム」のテキスト作成を依頼された。「スクールカウンセリング専門研修プログラム」について、今年度の申し込みをお待ちしています。

HP : <http://jsca.guide>

(文責：一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会理事 学校カウンセラー・ガイダンスカウンセラー 加勇田 修士)

★会員の著書紹介

笛木 鮎子 著

『手紙に託す 迷える心のセルフケア
スクールカウンセラーからのメッセージ』
(クオリティケア 2200円+税)

群馬県支部会員の笛木鮎子先生が、この度、2冊目のご著書を出されました。特別支援学校教諭の経験もある笛木先生は、現在、群馬県のスクールカウンセラーとして活躍されています。

本書は、学校が苦手な「あやかさん」へのスクールカウンセラーからの手紙という形式で、思春期の子どもたちに向けた著者からのメッセージが綴られています。手紙は、子どもたちが憂鬱な気分を抱える2学期始めから、翌年の秋までの75通。折々の季節の移ろいや日常のささやかな出来事、学校行事などを題材にしなが、生きていることの不思議さや素晴らしさ、物事を多面的に見ることの大切さなどを、著者はゆったりとしたペースで語りかけていきます。そこには、子どもたちが心を自由に広げ、自らの可能性に気付いてほしい、という著者の願いが込められています。

話題は、いじめや不登校・差別などから、友人・親子関係、そして身体や医療についてまで幅広く、心の専門家としての著者の体験に基づいた考えが語られます。またそこかしこに、自己理解や他者理解、不安症など、セルフケアに関する臨床心理学的な知識や技法が散りばめられていて、思春期の子どもたちが必要な時に実践できるような工夫されています。巻末の語句の説明も充実しているので、必要に応じて自分で学びを深めることもできます。

スクールカウンセラーが子どもたちに向けた本ですが、教師や保護者が、繊細な思春期の子どもを理解するためにも、きっと役立つことと思います。

(文責：群馬県支部事務局長 藤本 重夫)



★会長コーナー

大寒波豪雪に悩まされた長い冬を越え、ようやく春の気配が近づいて参りました。

文部科学省では、子どもたちを取り巻く課題が多様化・複雑化する現状を踏まえ、「心理や福祉に強い教員の育成」を重点施策として掲げています。大学の教職課程においては、スクールカウンセリングや教育福祉に関する科目の一層の充実が進められております。

また、現職教員への支援として、文部科学省の委託を受けたスクールカウンセリング推進協議会が、心理・福祉分野の専門性向上を目的とした研修プログラムを開発し、令和8年度からは、現職教員を対象とした新たな「心理・福祉に関する研修プログラム」(3日間)が本格的に実施される予定です。

研修プログラムの概要は次のとおりです。

1. スクールカウンセリング総論
2. スクールカウンセリングの理論①
ー カウンセリング心理学
3. スクールカウンセリングの理論②
ー 学校心理学
4. 児童生徒の発達的理解と発達の多様性
ー 臨床発達心理学の立場から
5. 不登校の未然防止と対応
6. いじめの未然防止と対応
7. 非行・暴力行為等の未然防止と対応
8. 諸課題に関する理解と対応
9. 集団に対する心理教育
10. 個別面談
11. 個別と環境のアセスメント
12. チーム支援におけるコンサルテーション・コーディネーション

これらの研修を通して、学校現場で求められる心のケアや家庭支援、そして福祉的視点を備えた教員の育成が一層進むことが期待されます。心理・福祉的課題に総合的に対応できる教員体制の構築は、子どもたちの安心と成長を支えるうえで欠かせない取り組みであり、私たちもその歩みを大切に見守り、支えてまいりたいと考えております。

(文責：会長 小玉 有子)



★事務局より

○全国支部事務局長会

令和7年10月25日に全国支部事務局長会を開催し、主に以下の点について、ブロックごとに活発な意見交流が行われました。

- ・会員増加の取り組み
- ・研修のあり方
- ・行政との連携

限られた時間の中で大変有意義な意見が数多く出されました。意見交流内容をまとめたものを各支部事務局長にお届けしておりますので、詳細をお知りになりたい方は、各支部事務局長にお問い合わせください。

○文部科学省表敬訪問

令和7年12月12日に、小玉会長及び副会長の3名で、文部科学省への表敬訪問を行い、千々岩良英児童生徒課長、総崎由希生徒指導室長と面会し、本学会の活動への理解と研究大会での講演の継続等について確認しました。

(文責：事務局長 米田 成)

★編集後記

広報委員会のコーナーにも書きましたが、今号から執筆依頼のメール配信を簡略化し、原稿回収もクラウドを使う方法に一新し、広報委員会の業務改善を推進しました。執筆者の皆様には、入稿に際して慣れない作業をお願いしましたが、無事原稿を回収し、発行にこぎ着けました。執筆者の皆様には、新方式にご対応いただき、ありがとうございました。

(文責：広報委員長 松本 直美)

一般社団法人日本学校教育相談学会 会報
第79号

令和8年3月20日発行

発行 一般社団法人 日本学校教育相談学会
会長 小玉 有子

編集 一般社団法人 日本学校教育相談学会
広報委員会 委員長 松本 直美

事務局 〒179-0073

東京都練馬区田柄3-11-28

一般社団法人 日本学校教育相談学会事務局

電話/FAX 03-3926-7386

HP <http://www.jascg.info/>